

防衛大学校本科第17期学生及び理工学研究科第8期学生 入校式における学校長式辞（昭和44年4月4日）

本日、坂村防衛政務次官^{注(1)}、牟田統合幕僚会議議長^{注(2)}をはじめ多数来賓各位の御臨席をいただき、御来校の父兄の皆様方と共に、本科第17期学生及び研究科第8期学生の入校式を挙行いたしますことは、私の衷心から欣快に存ずるところであります。

本科並びに研究科の入校生の諸君は、多数の競争者の中から特に選ばれて入校の榮譽を得られたのであります。ことに本科の諸君は、長い受験時代に終止符を打って、人生の新しいスタートにつかれました。諸君のお喜びはさこそと想像いたします。私は先ず諸君に対し、衷心から入校のお祝いを申し述べたいと存じます。本校といたしましても、今回かくも多数の若人をお迎えいたしますことは、学校関係者一同の大きな喜びであります。われわれは責任の重きを感じると共に、^{ここ}茲に覚悟を新たにしている次第であります。

新入生の諸君が今後の数年間を過ごされるこの小原台は、東京湾口^{やく}を扼し、西に富嶽、東に房総の山々を望み、海青く大気の澄む別天地であります。勉学にスポーツに心身を鍛錬する環境として、まさに絶好の条件に恵まれています。自然的条件に加えて、明朗闊達な校風と自主自律をモットーとする学生舎生活は、必らずや新入生諸君の共感を得て、その成長と進展に裨益^{ひえき}するところ決して鮮^{すく}なからざるものと考えておる次第であります。また益々^{びまん}瀾漫し深刻化しつつある大学紛争等の世相の中において、先輩学生諸君の規律を尊び真面目に勉学する態度は実に立派なものであり、私の密かに誇りとしているところであります。私は、多くの学校の中から本校を選んだ新入生諸君の判断と子弟を本校に託する決心をせられた父兄の皆様方の御期待に、必ずやお応え出来るものと確信しています。

研究科の諸君、諸君は部隊・機関等の職域を離れ、本日から再び勉学に専念せられることになりました。今後の2ヶ年間を、諸君は高度の科学技術の研究に従事されるわけ



第2代学校長 大森 寛

注(1) 坂村吉正

注(2) 牟田弘國空将

です。御承知のように大学紛争の影響を受けて、本年度の一般大学における自衛官の大学院入学は皆無の状況になりました。その間、何等かの差別待遇等があるならば、私は国民としての基本的人権を無視する自衛官の入学拒否等に対して、断固抗議するものがあります。しかし1970年を目前に控えて、かかる風潮は容易に解消しうるとは考えられません。防衛庁当局においては、種々これが対策を講じつつあるやに聞き及びますが、当面本校の研究科が従来にまして重視せられるべきことは申すまでもありません。従って諸君に対する期待は大きく、諸君の責任は重いとわなければなりません。諸君の入校のあとを預る同僚の労苦と諸君に寄せられている期待とを思い、いよいよ勉学・研究に精進せられるよう要望いたします。

さて本科新入生の諸君、諸君は4月1日の着校以来の数日間を学生舎において過ごされたとはいえ、防衛大学校及び諸君が将来進まれる自衛隊等について、殆んど知りうる機会がなかったであろうと想像いたします。私はこれらの問題について、入校の初めに諸君が正しい認識をもたれることが必要であると考えてるので、その概要についてお話ししたいと思います。

第1に諸君が学ばれる教科内容についてお話しします。これは大きく三つに分けることができます。その3分の1は理工学であり、3分の1は人文・社会学・語学及び体育であり、3分の1は防衛学即ち基礎軍事学です。即ち諸君は4年間の在校期間において、一般の理工系大学の教科内容と必要な軍事学とを学ぶことになります。教科内容は大学設置基準に準拠しておりますから、その学問的水準において、一般大学に比し決して遜色あるものではありません。これらの学科のほかに、年6週間の訓練があります。これは主として夏季等の期間を利用し、演習・乗艦等によって実施いたします。従って本校における諸君の生活は、殆んど学問の研鑽と体力の錬成に明け暮れるといっても過言ではありません。課外活動としての校友会活動においても、諸君は運動部・文化部のうち、希望に応じ適宜の活動に参加することが出来ます。勉学や体育等を中心とする毎日の生活はかなり忙しいものになり、また内容も充実し得るものと考えます。

第2に学生舎生活について申し述べます。本校においては全学生をもって学生隊を編成しています。従って諸君の日常生活は、学生隊の一員として行なうこととなります。本校が部隊編成による団体生活を実施しているのは、教育や生活の便宜のためではありません。諸君が将来幹部自衛官として勤務する日に備えて、このような生活体験が必要であると考えられるからであります。学生舎における生活は、自主自律の気風の下に先輩後輩の秩序に従って運営される団体生活です。団体生活においては、規律を重んじ責任を果すことが必要です。ゆえに諸君は、学生長を頭とする指揮組織の統制に服すると共に、組織を構成する一員としての役割を立派に果すよう期待されます。訓練部長以下の自衛官は指揮監督する立場にはなく、単に指導するに止まり、私もまた極力諸君の自由を尊重したいという考えを持っています。学生舎生活は諸君の自由な判断を基調とし

ます。何ものの制約も受けず、自我にも囚^{とら}われない自由は尊いものです。しかし真の自由は、厳しい試練と充分なる責任の自覚を経て初めて獲得されるべきものであります。従って本校における生活は、自主自律をモットーとしつつも、家庭の生活等に比し、かなり厳しいものであると考えていただかなければなりません。

第3に本校設立の目的について説明します。本校は幹部自衛官となるべき者を育成することを目的としています。科学者・技術者を教育して一般社会に送ることを目的としているものではありません。本校4年間の教育を受けた者は幹部自衛官となって、わが国防衛の任務に就くべき立場にあります。貴重な国費を投じて本校を設置している所以のものは、本校の卒業生が幹部となり陸・海・空自衛隊の中核となって、わが国の平和と安全を守ってくれることを期待しているからであります。国家は諸君に幹部自衛官になることを要請し、諸君はその要請に応えるべき道義的責任があると思います。諸外国と違って、わが国には幹部自衛官になるということについて、法律的な義務規定はあません。また費用弁償等の責任もありません。しかし幹部自衛官になるかどうかは、全く諸君の自由かという決してそうではありません。何となれば、諸君は道義的責任を負うからであります。諸君が本校を選んだ理由はいろいろあるでしょう。理工系の大学だからと考えて入った人もありましょう。規律ある生活を希望して志願した人もありましょう。自衛官になるという堅確な意思で入校した人もありましょう。さまざまな動機があることは当然であります。私は、今それを問題にしているのではありません。ただ本日からの生活を通じて諸君に国防とは何か、幹部自衛官の道を選ぶことは如何なる意義を持つかを考えて欲しいのです。疑問の点は先輩や指導官に質問して下さい。そして正しい認識の下に本校の教育をうけることを希望します。万一諸君がどうしても幹部自衛官の道に進みたくないとの結論に達した時は、何時たりとも申し出て差し支えありません。諸君は退学の自由を束縛されることはありません。志を立てて入校され、所謂同じ釜の飯を食った人が去って行くことは、われわれとして頗^{すこぶ}る残念なことです。しかし人を騙し、己を欺き通すべきではなく、本校においては、お互いに道義的責任を重んずる風をより重視して参りたいと考えているので、敢えて一言する次第です。

最後に将来諸君が進む幹部自衛官の本質に触れておきたいと思えます。幹部自衛官は国防の担い手です。昔の武士や外国の軍人と同じように、非常の際には必要に応じ一身の犠牲を顧みず、武力戦闘に対処すべき職分を有します。その意味において武人であると言わなければなりません。諸君は、本校在校中から武人としての心構えを涵養することが大切です。しかし武人というものを、単に戦争をするための機械的人間と考えるのは大きな誤りです。昔の武士は文武両道に秀でておりました。将来の国防の担い手は、専門分野のほかに科学的な知識と並んで政治・経済・文化・外交等広範な知識が必要です。従って幹部自衛官も武人であると同時に、立派な人間、立派な社会人でなければなりません。本校における教育は、以上の趣旨から視野の広い、見識の高い、人間性の豊

かな人材の育成を第一義とし、併せて必要な軍事専門識能の基礎を錬成すること目標としている次第です。諸君の充分なる理解を要望して式辞といたします。